

2023年度 認定こども園 牛津ルーテルこども園自己評価表

1. 園の教育・保育方針

『ひかりの子として歩みなさい』

《教育・保育方針》

教育・保育要領に則り、キリスト教精神に基づいた教育及び保育を行う。

人間は神の前では皆平等であり、一人ひとりがかけがえのない存在であるが故に、互いに愛し合い助け合ってゆかねばならない。乳幼児期の子どもにとって一番必要なことは、人間らしい生き方の基礎と人間としての力の基礎を培うことである。

《目標》

生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な乳幼児期に、神さまの大きな愛に包まれた園で、保育者や友だちに愛されていることを感じながら、安心していきいきとした園生活を送る。

《めざす子ども像》

1. 神さまと人に愛される健康でこころの豊かな子ども
2. 遊びを通して友だちと共に学び育ち合うたくましい子ども
3. 他者の痛みや喜びを自分のものとして共感できる感性豊かな子ども
4. 神さまからいただいた命の大切さを知り、喜びと感謝のこころをもつ子ども

*年齢別目標

0歳児：保育者との愛情あふれるかかわりの中で、人に対する信頼感を育てる。

1歳児：信頼する保育者とかかわりの中で、自我の芽生えをていねいに受け止めてもらいながら安心して過ごす。

2歳児：信頼する保育者や友だちとかかわりの中で、基本的な生活の流れがわかる。

3歳児：保育者や友だちと一緒に遊びかかわることを喜び、楽しさや充実感を味わう。

4歳児：遊びや生活の中で、一人ひとりが安心して自己を発揮できるようになる。

5歳児：仲間とかかわりが深まり遊びこむ中で、相手の気持ちがわかり、協調性や思いやりの心を身につける。

2. 本年度重点的に取り組む目標

今年度は大きな二つの柱を掲げて取り組む。一つ目は本園の保育の根幹ともいえるキリスト教保育の理念やねらいについて職員間で学び直し、日課においての礼拝の在り方や日常の生活や遊びの中での小さな祈りや賛美（讃美歌をうたう）の時を持てるよう心掛けていく。

そのためには、保育者の意識改革が必要である。園内研修での学び合いを引き続き行い、礼拝の中では聖書の話だけでなく日常の生活や出来事に結び付くような話についても皆で学び、情報共有する機会を設ける。

二つ目は引き続き、以上児クラスの基本的な生活習慣の確立に向けての取り組みに力を入れる。縦割りクラスで3年間過ごす中で、習慣化していくためには個別の丁寧なかかわりと共に手本となる保育者や年長児の姿も大切であると考え。年長児の姿を見守り、肯定的に受け止めながら定着を促していく。

3. 重点目標及び評価項目の取組みでの自己評価

重点目標	評価
<p>今年度は大きな二つの柱を掲げて取り組む。一つ目は本園の保育の根幹ともいえるキリスト教保育の理念やねらいについて職員間で学び直し、日課においての礼拝の在り方や日常の生活や遊びの中の小さな祈りや賛美（讃美歌をうたう）の時を持つよう心掛けていく。</p> <p>そのためには、保育者の意識改革が必要である。園内研修での学び合いを引き続き行い、礼拝の中では聖書の話だけでなく日常の生活や出来事に結び付くような話についても皆で学び、情報共有する機会を設ける。</p> <p>二つ目は引き続き、以上児クラスの基本的な生活習慣の確立に向けての取組みに力を入れる。縦割りクラスで3年間過ごす中で、習慣化していくためには個別の丁寧なかかわりと共に手本となる保育者や年長児の姿も大切であると考え。年長児の姿を見守り、肯定的に受け止めながら定着を促していく。</p>	<p>キリスト教保育については、まず日々の生活や遊びの中でいつも私たちは神さまに守られていることを保育者自身が感じ、子どもたちに伝えていくことを大切にしてきた。聖話だけではなく、日常生活の中で祈りの場面を設けるなど行ってきた。また、各クラスで行った聖話を月1回キリスト教保育についての園内研修の際に情報共有を行い、自分のクラスでも学びを活かし取り組むことができた。</p> <p>以上児クラスの基本的な生活習慣の確立については、4月当初より個別での丁寧なかかわりを行って行く中で食事、排泄、衣服の着脱等は徐々に習慣化した。トイレのスリッパの取り扱い等はまだ習慣化には至っておらず、引き続き丁寧なかかわりを行って行くとともに、職員でより有効な手立てを検討していく必要がある。</p>

評価項目	評価
<p>キリスト教保育の理念に基づき、神さまに守られ、神さまの存在を身近に感じられるような時間を保育の中に取り入れる（未満児クラス）</p>	<p>遊びの時間に自然な形で礼拝が始められるような雰囲気をつくり、お祈りをしたり讃美歌を歌うようになり、子どもたちの中に礼拝の時間が生活の一部になってきている。その中で、日常の出来事に神さまのことを関連付けて話をするにより、子どもたちにとって神さまがより身近な存在となり、神さまに守られている安心感を感じて園生活が送れるようになってきている。</p>
<p>キリスト教保育の理念やねらいに基づき、子ども理解やかかわり方を改めて見直し、職員間で共有し構築をはかる。</p>	<p>キリスト教保育の理念やねらいをまずは職員がしっかりと理解することが大切であることから、毎月の読み合わせの時間や聖研への参加を積極的に行ってきた。職員がキリスト教保育について学びを深め、意識をもってかかわりをもつことにより、子どもたちにも浸透してきているように感じる。今後も、職員の中にキリスト教保育が根付いていくよう、学びを継続していきたい。</p>
<p>以上児クラスの基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>前年度に引き続き基本的な生活習慣の確立について取り組んだ。衣服の着脱、手洗い等は丁寧にかかわることではほぼ確立しつつある。食事については個々の発達や特性に応じ食べる場所を配慮するなど工夫している。トイレのスリッパの取り扱いについては個別に指導する場面が多い。一人ひとりが習慣として身に付くよう今後も繰り返しかかわっていく。</p>

<p>遊んだ後の片付けのルールや遊具や玩具の取り扱いを丁寧に行うこと、自分で製作した物に愛着を持って扱うことなどについて子どもが理解し、納得し習慣化するように促す。</p>	<p>室内の片付けについては、遊びで使った物を片付けてから次の遊びへ移行できるよう個別にかかわり、身に付いてきている。戸外の片付けについては引き続き取り組んでいく。また、製作物を大切に扱うことについては、作品に記名したり、自分の名前のゴム印を作品に押すことで愛着を高めるようにしている。また、作品を使って遊びに発展できるよう、保育者や友だちとイメージを共有し膨らませながら製作し、遊べるような働きかけを行うことで製作物の適切な使い方を理解できるようになってきた。</p>
--	---

4. 今後取り組むべき課題

項 目	具体的な取り組み方法
<p>子どもの情緒の安定を図り、その心の成長に寄り添いながら、主体的に活動したり、豊かな体験ができるような環境構成や保育の工夫をする。(未満児クラス)</p>	<p>子どもたち一人一人が、保育者に受け止めてもらいながら、安心感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表現することができるような援助やかかわりをする。また、保育室の環境を整えたり、日課の中に子どもたちが主体的に楽しめる活動や様々な体験を計画的に取り入れ、子どもたちの満足感や充実感につながるようにする。</p>
<p>挨拶をしない子どもが多いと感じる。挨拶することの心地良さを感じ、挨拶の大切さを知ることができるように働きかけていく。(以上児クラス)</p>	<p>挨拶を交わすことの心地良さを感じられるよう、日常生活の中で積極的に大人が明るく挨拶することを心がける。家庭でも取り組んでもらえるように働きかける。また、挨拶をする子どもの姿を認め、イラスト等で挨拶する姿を可視化するなど工夫する。</p>
<p>支援の必要な子どもの、思い通りにならない場面で友だちに手が出る、物に当たるなどの行為についてどのように対応していくと良いか、また、他児の安心・安全やクラス全体の活動や遊びを保障するためにどのように取り組むと良いか計画的に取り組む。</p>	<p>支援の必要な子どもへのかかわり方については、外部講師による研修を定期的実施し、環境やかかわり方について具体的に検討し、個別の支援計画や日課をたてるなど工夫し、実践していく。その中で保育者が適宜役割分担しながら保育にあたり、クラスの活動や遊びが保障されるように連携しながらかかわっていく。</p>

6. 学校関係者の評価

- ・一歳児は言葉で伝える事が難しい為、ひっかきやかみつきなどの行動が多くなります。予測して見守る事が大切だと思います。子どもの行動をよく観察し先を見通す力がつくといいですね。
- ・気になる子どもの個別対応は、保育者の加配も必要になるのでなかなか難しいと思います。保護者の理解が得られるように保護者との良い関係性を築くよう努めてください。

2024年5月8日

学校法人牛津ルーテル学園 監事 千々和 恵子

7. 財務状況

公認会計士監査の結果、財務管理は適正に行われ、健全経営に努められていると認められます。

2024年5月8日

学校法人牛津ルーテル学園 監事 鶴澤 順一

8. 苦情件数 3 件